

2013年(平成25年)12月20日



発行所
大阪市PTAだより編集室
編集発行人
大阪市PTA協議会
会長 笹川 正明
編集協力
大阪市教育委員会事務局

中学校

私は幼い時から「ものづくり」が大好きで、アイデアが形になっていくプロセスに夢中になる体験をしてきました。教

員になってからは、生徒たちにそんな体験をぜひさせたいと考えていた時に、「校内ロボットコンテスト」(略して「ロボコン」)のことを知り、早速準備を整え取り組み始めました。

生徒たちの多くはロボットと言えば、人型ロボットをイメージします。そこで、「ロボコン」に取り組むに際し、私たちの生活において今やロボットはなくてはならない存在で、実際には「アーム(腕)」だけの産業ロボットなど、人型以外のロボットが一般的であり、社会で活躍するロボットは目的に応じて工夫を凝らした機構になっていることを伝えました。

次に「ロボコン」のルールを発表し、3～4人で編成したチーム内でアイデアをまとめていく練習

作業をしました。この段階で、既に生徒たちは予想以上に夢中になっていました。そして、作業は進み最終的にはそれぞれに違ったアプローチのロボットが完成し、そのロボットには随所に工夫が感じられました。もちろん、「ロボコン」大会当日は大変盛り上がったものになりました。

この取り組みで何より良かったのは、ロボットづくりでは教員が示す正解「唯一解」がないので、必然的に課題解決のためにチームで正解「最適解」を見つけることでした。つまり、ロボットづくりではコミュニケーションをうまくとることが大きな鍵を握り、それがうまくいかない班は製作がなかなか進みませんでした。今、すべての教科で求められている「言語活動」を取り入れた取り組みにもなりました。

今年度も2年生が「ロボコン」に取り組んでいます。今後もロボットづくりを通して、さまざまな課題を解決しつつ一人一人が成長していくことがとても楽しみです。(淡路中学校 西野信啓)

ものづくりで「解決する力」を育てる

～ロボコンでコミュニケーション～